事　務　連　絡
平成24年12月26日

地　連　会　長　　各位

公益財団法人全日本弓道連盟(印略)

安全管理・事故防止の徹底について（お願い）

標記のこと、本年12月以降、高等学校における部活動中の事故が相次いで発生しています。幸い重大な事故には至っておりませんが、いずれも通常の危険防止措置を施しているにも関わらず発生した事故でした。

各地連におかれては種々の対策をされていることとは存じますが、より一層の安全管理体制の確立・危険防止にご留意の上、事故防止の徹底をお図りいただき、弓道関係者各位へご周知いただきますよう願い申し上げます。

記

〇静岡県浜松市内の高校での事故／平成24年12月1日
〇長野県上田市内の高校での事故／平成24年12月23日
※詳細は、別紙写しをご覧ください。

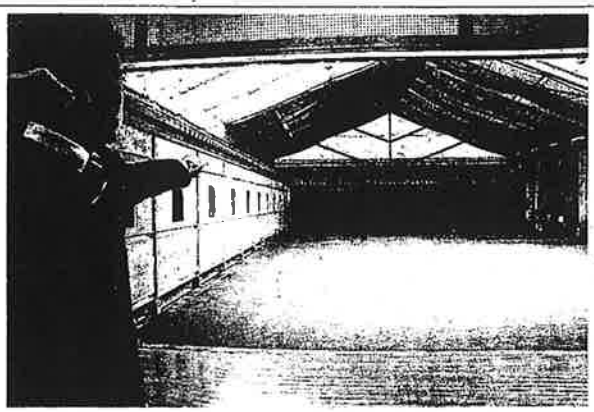
以上

弓道の矢 刺さりけが

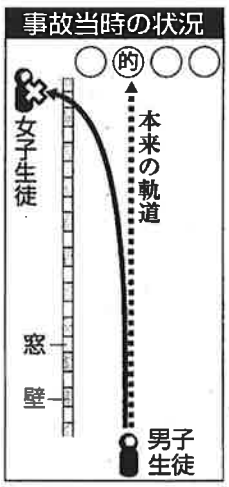
浜松市立高 軌道それ部員の頭に

浜松市立高（同市中区）の弓道場で1日午後4時ごろ、弓道部の練習中に2年の男子部員(17)が放った矢が、1年の女子部員(16)の頭に刺さる事故があった。同高などによると、女子生徒は市内の病院に運ばれたが、意識ははっきりしていて歩くこともでき、命に別条はないという。浜松中央署が原因を調べている。

現場にいた弓道部顧問の駒月茂教諭によると、当時は1、2年生48人が練習中だった。女子生徒は的に当たったか否かを確認する「看的」担当で、的から2～3㍍離れた通路に立っていた。的と通路の間には壁が設置されているが、10カ所に窓（縦70㌢、横60㌢）があり窓は開いていた。男子生徒が放った矢が射場から最も遠い、女子生徒がいた窓から通路側に入り、生徒に当たったとみられる。



生徒が矢を放った位置から見た弓道場。左側の壁の一番遠くの窓から矢が出たとみられる＝浜松市中区の浜松市立高弓道場



射場から的場までは28㍍。壁の窓は的に当たったかどうかを音で確認するため通常、開放している。矢を放った男子生徒は「右手の（グローブに付いた）ツメが弦（つる）に引っかかり抜けなかったので、左手が左に触れて（矢に変化が掛かって）しまった」と話しているという。

平常時、全部員で1カ月約3万本の矢を射るが「通路側に飛んでいくことはほとんどなく、角度があるので相当曲がらないと窓には入らない」と駒月教諭。川島慎二教頭は「想定しにくいケースとはいえ、対策が100％ではなかったということ」とし、窓に網を張ったり、看的役を通路に置かないなどの再発防止策を取るとした。

信濃毎日新聞
1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南千歳町 657番地
電話(026)
受付 236-3000 編集 235-3111
販売 236-3310 広告 235-3393
松本本社 〒390-8711
松本市宮田 2番10号
電話(0263) 編集 25-2151
販売・広告・事務 25-2163
©信濃毎日新聞社2012年

H24.12.24(月)

上田高で生徒に弓道の矢当たる

部活中 耳の下縫うけが

23日午後3時ごろ、上田市大手の上田高校から「女子生徒に弓道の矢が当たった」と119番通報があった。上田広域消防本部の救急隊員が駆け付けたが、軽傷だったため救急搬送はしなかった。同校によると、女子生徒はその後、市内の病院で手当てを受け、耳の下を縫ったという。

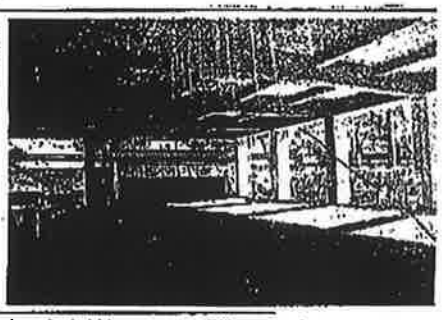
同校の宮坂栄治教頭によると、この日は弓道班が同校敷地内にある弓道場で練習をしていた。生徒が的に向けて放った矢が何らかの原因でそれ、近くにいた女子生徒に当たったとみられる。同校は、事故が起きた際の詳しい状況について確認を進めている。

H24.12.25(火)

防護ネット上部 矢が通り抜ける

上田高弓道場事故

上田高校（上田市大手）の弓道場で23日に女子生徒に矢が当たり、軽傷を負った事故で、矢は防護ネットと天井の隙間を抜けたとみられることが24日、同校への取材で分かった。けがをしたのは同校弓道班の2年の女子生徒(17)。同校は当面、班の活動を休止して安全対策を検討するとしている。



上田高校の弓道場に張られた防護ネット。天井との間に隙間がある

同校によると、弓道場は体育館の建物1階部分にあり、全体を囲う壁はないが天井がある。事故当時は弓道班の1、2年生女子計22人が練習していた。午後3時ごろ、1年生(16)が射場のうち的に向かって最も左の場所から放った矢が、左前方約20㍍の防護ネットの外にいた2年生に当たった。この生徒は右耳下の首筋近くに軽傷を負った。

射場の前面には防寒用の透明シートが張ってあり、5カ所に開けたそれぞれ約60㌢四方の穴から的を狙う仕組み。1年生が放った矢は穴の縁に触れて軌道がそれ、防護ネットと天井の間にある数十㌢の隙間を抜けて落ち、2年生に当たったとみられている。

同校の宮坂栄治教頭は「こうした事故は今までになかった。万全の対策を講じて班活動を再開させたい」としている。